

青年部「語り継ぎ」学習会

組合活動の意義を知り、受け継ぐ

1月28日、ラッセホールで青年部「語り継ぎ」学習会を開催し、県内各支部の青年教職員59人が参加した。

全体会では「なぜ、教研活動をするのか」と題し、兵庫教育文化研究所事務局長の野野山一さんが講演を



分断会では、8つのグループにわかれ、「平和教育」「防災教育」「同和・人権教育」「インクルーシブ教育」「ジェンダー平等(男女共生)教育」をテーマに、講師と青年部役員が教育研究活動のとりくみや悩み、実践について意見交換をおこなった。地区・支部を超えて仲間と思いを共有できたことは大きな成果となった。

第30回 学校給食を考える集い

食の原点を考える

3月1日、ラッセホールで第30回学校給食を考える集いを開催した。県内各地域の栄養教職員をはじめ、一般教職員・保護者106人が参加した。

栄養教職員は、安全・安心でおいしい学校給食の充実と、学校給食における食育材として学校における食育



推進にとりくんでいる。県内各地で中学校給食導入にむけた動きが加速しており、食物アレルギー対応をはじめ、地域・保護者と連携した学校給食の重要性がますます高まっている。

今回は集会テーマを「食の原点を考える」とし、自ら栽培した飼料を使って豚やアイガモなどを育て食肉に加工し販売するともに、アイガモ農法によるコメの生産にもとりくんでおられる牧場経営者からの講演に加え、震災・学校支援チーム(EARTH)学校給食班所属の栄養教職員より、熊本地震をはじめとする被災地支援の現地報告があった。

子どもたちへの支援につながっていると感じた。「兵庫県の『このころの通いあう』学校運営がなぜスタートしたかがわかった」「最初は緊張していたが、話し合いが始まるととても穏やかな雰囲気での話ができ、兵庫の働きやすさや活動する大切さを感じた」「先輩方が今までにとりくんでこられた組合活動があつてこそ今の今がある」「この分断会も学びが多く、またそれらを『語り継ぐ』ことが大切なんだと感じた」「支部ごとにもっとくとりくみが違い、たくさん意見交換ができて勉強になった」という感想が寄せられた。

第9回 青年事務職員実践講座

青年事務職員としての力量を高めるために

2月10日、ラッセホールで、第9回青年事務職員実践講座を開催し、県内各支部の事務職員56人が参加した。

事務職員部では、若い世代間での交流をおこない、先輩事務職員の現場実践や事務職員部運動を学ぶとくみとして、この講座をおこなってきた。次世代の事務職員部を担うリーダーを育成するとともに、青年事務職員としての力量を高める目的で開催されている。

参加者からは、「食べ物を大切にするという指導はもちろんですが、今日のように実際のところまで詳しく話すことはなかった。食べ物は命」ということをしっかりと伝えていきたい」「私自身も今回、食べ物の命について再確認できるよい機会になった。給食指導において『食べ物』という意識を持って子どもたちへ声をかけていきたい」と寄せられた。

2月21日、ラッセホールで、第2回学校事務実践講座を開催し、県内各地の事務職員や研究所員等合わせて43人が参加した。

今次講座は、これまで学校行財政部会がすすめてきた研究テーマ「子どもの教育と学校予算」のレポート

にとつて、兵教組運動をすすめてこられた先輩の方のとりくみ・実践を知ることができる貴重な機会となった。今後も青年部として「兵教組運動の語り継ぎ」を位置づけ、本部としても、組合活動の見える化、運動をすすめていく。

第2回 学校事務実践講座

子どもの教育と学校予算

講座Iでは、前兵教組事務職員部長の松本亨さん(宝塚)が「学校防災と事務職員の役割」をテーマに、大震災の教訓・語り継ぎ」と題して講演をおこなった。学校施設の防災安全について、事務職員は点検結果をもとに、限られた配当予算を効果的・効率的にとりあつかうことが可能だと話した。

日教組事務職員部専門委員の山下武馬さん(三田)からの報告では、日教組事務職員部による「学校自治を支える学校事務職員像」を国・事例から」と題した講演があった。

日本と同じように韓国でも少子化による地域の空洞化や学校統廃合といった問題が起きているが、学校事務職員が要となる、学校の裁量権を活用しながら改革をすすめている事例がある。教員以外のスタッフの配置比率が高い韓国では、学校自治の理念を具現化するためには学校事務職員が必須であると認識されていることなどを紹介し、「日本でも教育内容の充実をはかる方向で裁量権を行使していければ」と話した。

午後、学校行財政部会が作成したレポート「子どもの教育と学校予算」の報告をもとに、グループワークをおこなった。

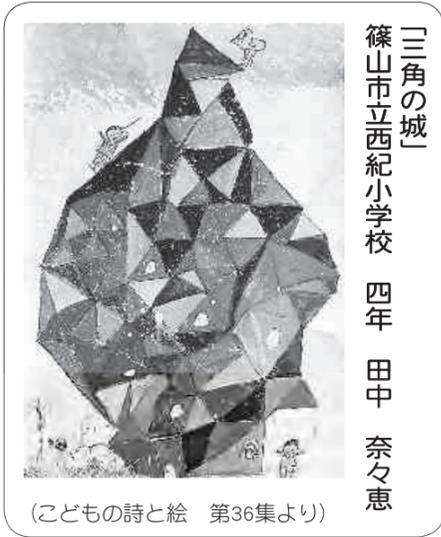
学校行財政部会では、経

務職員部常任委員会から受けた諮問への答申内容について説明があった。

講座IIでは、「学校防災と事務職員の役割」と「日常実務交流」をテーマにグループワークをおこなった。講座Iを振り返って、学校防災のために自分たちはどんな役割を果たせるかということや、日常の実務上の悩みや疑問等について話し合う機会となった。



グループワークのようす



(こどもの詩と絵 第36集より)

篠山市立西紀小学校 四年 田中 奈々恵

算の現状と課題」「学校予算委員会のある方やモデル案」について、すべての教職員が知っておきたい内容がまとめられ、「教員」と「学校事務職員」それぞれの果たすべき役割が整理されている。さらに、「家庭・地域・関係機関とのかわり」についても提起されている。

レポート提起を受けた後、参加者でレポート内容や各校の実態について意見交換をおこなった。今回のレポートを学校予算を知る「共有する」契機として、学校の教育活動や地域でのとりくみ、予算拡充、保護者負担の軽減につながる運動へと発展するよう、レポート内容を周知していく必要がある。今後、各支部・分会においても市町教育予算学習会等で活用し、学習を深めていけるようなりくみをお願いしたい。

総合共済

月掛金900円で12の保障(補償)

1 教職員賠償	2 個人賠償	3 火災等	4 住宅災害等
5 災害見舞	6 死亡	7 後遺障害	8 入院・休業
9 傷害	10 介護(傷害事故による)	11 遭難救助	12 退職

1年以上契約すると誰でももらえる!

ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください。

突然の賠償事故にも...

卒業アルバムの校正ミス!
卒業アルバム作成時に生徒の名前に誤りがあったが、担当の教員が発見できず、修復が必要となった。

お支払金額 **約8万円**
2014年度の支払実績(教職員賠償) 件数▶95件 支払金額▶約497万円
※補償の有無・支払金額などは状況により異なります

他人にケガを負わせて治療費が発生!
セルフサービスの飲食店で、トレーから紅茶をすべり落としてしまい、近くに座っていた人にヤケドを負わせてしまった。

お支払金額 **約300万円**
2014年度の支払実績(個人賠償) 件数▶193件 支払金額▶約4,884万円
※補償の有無・支払金額などは状況により異なります

※この共済は教職員共済の「総合共済」と損保ジャパン日本興亜の「傷害総合保険」「業務過誤賠償責任保険」とのセット商品で、月掛金900円のうち170円は損保ジャパン日本興亜の保険料です。

あんしん むすぶ 教職員共済

資料請求・お問い合わせは

教職員共済生活協同組合 兵庫県事業所

〒650-0004 神戸市中央区中山手通4丁目 10-8 ラッセホール4F

電話 (078) 221-9730 FAX (078) 221-1199